

研究指導 石光 真 教授

白河市における歴史まちづくり法の現状と課題

佐々木 胡桃

1. 研究背景

1.1 歴史まちづくり法

地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(以下、歴史まちづくり法)は平成20年に施行された法律である。歴史的風致の維持及び向上を目的として制定された法律だが、歴史的風致とは「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されている(歴まち法第一条)。^[1]

1.2 歴まち計画

歴史まちづくり法では、歴史的風致維持向上基本方針に基づき歴史的風致維持向上計画(以下、歴まち計画)を市町村が作成し、主務大臣(文部科学省、農林水産省、国土交通省)から認定を受けることで、歴まち計画に基づいた特別措置などを受けることができる。令和5年2月現在、歴まち計画認定都市数は88都市である。福島県内では白河市、国見町、磐梯町、桑折町、棚倉町が認定を受けている。^[2]

歴まち計画では「歴まち計画に記載された計画期間内に限り、歴史的風致を形成しており、かつ、その歴史的風致の維持及び向上のためにその保全を図る必要があると認められるものを歴史的風致形成建造物として指定することができる」(歴まち法第一二条第一項)。歴史的風致形成建造物に指定することで、指定文化財をはじめ文化財無指定の歴史的建造物も保存することができ、歴史的な景観や町並みを保全することができる。^[1]

1.3 白河市

白河市は、福島県南部に位置する市である。第104回全国高校野球でも話題になった「白河の関」をはじめ、「白河小峰城」や「南湖公園」など市内には歴史的建造物や行事が多く残っており、国・県・市指定文化財及び重要美術品は計151件である(令和4年10月現在)。また、現在の白河市の人口は約5万8千人である(令和5年1月時点)。

図 1より、白河市の人口は減少傾向にあり、0歳から14歳、15歳から64歳の人口が減少しているが65歳以上の人口は増加し高齢化が進んでいることが分かる。

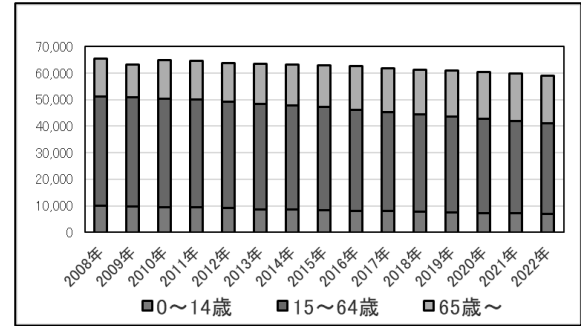


図 1 ([3]をもとに筆者作成)

1.4 白河歴まち計画

白河市は、白河市歴史的風致維持向上計画(以下、白河歴まち計画)が認定されている。歴史的建造物などの保存・活用から波及する交流人口の増加や、それらの利活用による地域活性化を図るとともに、白河市特有の歴史的風致を次世代に伝え引き継いでいくため、「白河市歴史的風致維持向上計画」を策定した。

1.5 歴史的風致形成建造物

白河市では、歴史的風致形成建造物に指定した建物の前に、建物の概要が分かるよう名称などの説明を加えたものを設置している。訪れた観光客に建物の詳細が一目で分かるようになっている。(図 2)

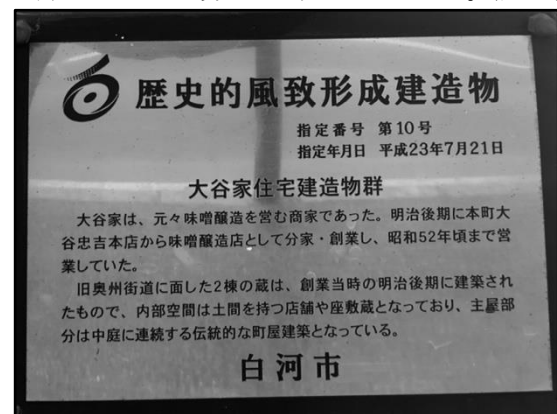


図 2

2. 研究目的

歴史まちづくり法や歴まち計画についての研究はいくつかあるが、白河歴まち計画に限定された研究はなかった。また、第一期計画の計画期間が終了し

第二期計画が既に進行しているため、白河歴まち計画の現在の課題を明らかにし、その課題が現在どのようになっているのか現状を把握することを本研究の研究目的とする。

3. 調査概要

第一期白河歴まち計画[4]と歴史的風致維持向上に関する課題[5]、第一期計画最終評価シート[6]、第二期白河歴まち計画[7]と歴史的風致維持向上に関する課題[8]・市役所への取材をもとに、「歴史的な町並み・歴史的建造物に関する課題」、「文化財の保存・活用に関する課題」、「伝統文化・技術の伝承に関する課題」に分けてそれぞれまとめる。

3.1 第一期白河歴まち計画

申請: 平成23年1月17日

認定: 平成23年2月23日

計画期間: 平成23年度~平成32年度

歴史的風致形成建造物:45件111棟指定

【歴史的風致】

- 白河提灯まつりにみる歴史的風致
- 白河だるまと白河だるま市(市神祭)にみる歴史的風致
- 酒造業にみる醸造業の歴史的風致
- 南湖公園の行楽の歴史的風致
- 街道集落にみる歴史的風致
- 天道念仏と太鼓芸にみる民俗行事の歴史的風致

3.2 歴史的風致維持向上に関する課題(第一期)

【歴史的な町並み・歴史的建造物に関する課題】

- 旧城下町である中心市街地は、歴史的建造物の多くが改修や管理者等の担い手不足による取り壊しが進み、歴史的な町並みが失われている
- 現在の残されている歴史的建造物は、学術的な調査が行われておらず所在や価値が明らかになっていないものが多い
- 電柱や電線によって景観が損なわれていたり、白河提灯まつりでは提灯が電柱に引っかかってしまったりと祭礼の運行を阻害している

【文化財の保存・活用に関する課題】

- 現在の残されている歴史的建造物は、学術的な調査が行われておらず所在や価値が明らかになっていないものが多い
- 歴史的建造物の多い旧奥州街道などは、回遊ルートの整備がされていない
- 指定文化財では、小峰城の石垣崩落の危険性などがある

【伝統文化・技術の伝承に関する課題】

- 少子高齢化や人口減少による祭礼行事の後継者や担い手が不足している
- 醸造業などの伝統産業も高齢化や後継者不足により職人が不足し伝統産業の存続危機である

3.3 第二期白河歴まち計画

申請: 令和3年2月17日

認定: 令和3年3月5日

計画期間: 令和3年度~令和12年度

歴史的風致形成建造物:44件100棟指定

【歴史的風致】

- 白河提灯まつりにみる歴史的風致
- 白河だるまと白河だるま市(市神祭)にみる歴史的風致
- 酒造業にみる醸造業の歴史的風致
- 南湖公園の行楽にみる歴史的風致
- 街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致

3.4 歴史的風致維持向上に関する課題(第二期)

【歴史的な町並み・歴史的建造物に関する課題】

- 所有者の高齢化による高額な管理費の負担が困難であり、後継者も不足している
- 市内の歴史的建造物は個人所有のものが多く、空き家や空き店舗でも所有者との連携が必要であり新たな活用法が見出せない
- 観光客が小峰城や南湖公園に集中しているため、旧奥州街道の通りにある歴史的建造物への回遊性が低い
- 第一期計画の無電柱化事業で未実施の区域がある

【文化財の保存・活用に関する課題】

- 小峰城や南湖公園などのその他の文化財は、保存計画や中長期的な活用計画が策定されていない
- 未指定の文化財も保存計画や中長期的な活用計画が策定されていない

【伝統文化・技術の伝承に関する課題】

- 少子高齢化や人口減少による祭礼行事の後継者や担い手が不足しており、休止している行事もある
- 無形民俗文化財の祭礼の伝承方法がほとんど口頭であるため、変遷の記録をどのように残していくのか
- 伝統産業は技術継承が課題であり、第一期策定時よりも深刻な状況にある

4. 歴史的風致維持向上に関する課題の現状

【歴史的な町並み・歴史的建造物に関する課題】

歴史的建造物の学術調査により、第一期計画では45件111棟・第二期計画では44件100棟を歴史的風致形成建造物に指定し、その約半数で支援や補助を行い保存事業に努めた。しかし、市内にはその他にも数多くの歴史的建造物が存在しているが、全てを把握できていない状況である。

また、白河提灯まつりの運行ルートである主要地方道白河停車場線と小峰城三重櫓の視点場となっている都市計画道路白河駅白坂線の2路線について無電柱化事業を進めたが、未だ景観が損なわれていたり祭礼運行の障害になっていたりする電柱・電線があるため、無電柱化事業を引き続き進めていく必要がある。

【文化財の保存・活用に関する課題】

歴史的風致形成建造物に指定されたが保存事業が実施されなかったその他半数についても、現状維持に保存されている。また、歴史的風致形成建造物に指定している建造物のほとんどは住居や店舗等に活用されており、旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷は市が取得して無料見学施設となっている。歴史的建造物は、事業完了後も定期的に建造物の状態を確認しメンテナンス等の支援を検討する必要がある。

回遊性向上のため旧脇本陣柳屋旅館や丹羽長重廟周辺の整備、道路歩道整備、文化遺産めぐりツアーの開催などを実施した。しかし、第一期計画終了後に実際に回遊性が向上したというデータがないため回遊性向上効果の検証が必要になる。

国道294号バイパスが2023年2月4日に全線開通したため、東北自動車道白河中央ICや国道4号線などの主要道路に繋がった。交通の利便性が向上し、観光客誘致にも繋がるので今後その効果に期待したい。

第一期計画認定後に東日本大震災が発生し、小峰城の石垣が崩落したが、崩落した復旧対象の石垣の修復はすでに完了している。小峰城の重要な建造物であった清水門はまだ復元されていないが、本丸につながる重要な門であるため城郭整備の一つとして整備を進めていく必要がある。

【伝統文化・技術の伝承に関する課題】

無形民俗文化財については、活動を記録することで保存をしているが、保存した記録は一般公開していない。また人口減少により祭礼に人が集まらず、経済的に厳しい状況が増える。そのため、活動を記録保存しても後継者がいなければ伝統文化の消滅が危惧される。保存した記録を活用し、後継者育成に努めたり経済的支援を引き続き行ったりすることが必要である。白河の歴史の手引きである「れきしら」を活

用し、しらかわ検定を行なっているが、受験者数が年々減少傾向にあり、特に中高生の受験者が少ない。市内の小中学生に配布している「れきしら」だが、白河検定とともに認知度を高めることで白河の歴史を知ってもらうことが必要である。また、第一期計画策定時に13軒あった醸造業だが今は6軒に減少している。醸造業だけでなく伝統工法による歴史的建造物など伝統的な技術は伝承が難しく保存が課題だが、郷土愛を深め守ろうという意識が大切である。

5. 考察

市内に多く点在する歴史的建造物について、調査が行われていないものがあるので、まずは全体数を把握し保存すべき歴史的建造物については調査を行う必要がある。

また、白河歴史まち計画は、市全体の魅了向上や地元への愛着心を高めること、交流人口拡大などを期待して計画を申請したが、市民に対する歴史的風致に対する意識調査の実施や市内の回遊性向上効果などの検証が行われていないため、期待した効果が表れているのかを調査する必要がある。

令和3年度福島県観光地実態web調査[9]によると「自分が是非体験したい」、「機会があれば体験したい」の項目で20代の男女ともに「地元の仕事1日体験」や「地元のスペシャリストへの弟子入り・同行体験」のスコアが高い。そのため伝統産業・伝統文化については、現在行っている体験ツアー以外にも拡大を行うことで、伝統産業が活性化されると考える。

祭礼に関しては、2023年現在ではそれぞれ規制が緩和されてきており、コロナ禍前のように祭りや行事が開催されることが増えてきている。白河だるま市・白河提灯まつりは延期や規模縮小での開催など新型コロナウイルスの影響もあったが、2023年白河だるま市は3年ぶりに通常開催される。歴史的建造物保存などのハード事業だけでなく、祭りや行事などのソフト事業にも力を入れていくことで、歴史的風致の維持及び向上が行われると考える。

6. 謝辞

ご多忙の中、本研究のインタビューにご協力してくださった白河市建設部まちづくり推進課 和知様には厚く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] e-GOV,平成二十年法律第四十号 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律,
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=420AC0000000040>
(参照 2023-02-08)
- [2] 国土交通省,歴史まちづくり,歴史的風致維持向上計画認定状況について,

- https://www.mlit.go.jp/toshi/rekimachi/toshi_history_tk_000010.html (参照 2023-02-08)
- [3] 白河市,市政情報,統計資料,各種統計資料,
<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/page/page01013.html> (参照 2023-02-07)
- [4] 白河市,まちづくり・市民協働,白河市歴史的風致維持向上計画(第一期)
<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/page/page000613.html> (参照 2023-02-05)
- [5] 白河市歴史的風致維持向上計画,第3章 維持向上すべき歴史的風致,歴史的風致の維持向上に関する課題 pp.124-126
http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/data/doc/1453259068_doc_7_6.pdf (参照 2023-02-07)
- [6] 白河市,まちづくり・市民協働,白河市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価,白河市歴史的風致維持向上計画の最終評価シート
http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/data/doc/1623810088_doc_98_0.pdf (参照 2023-02-07)
- [7] 白河市,まちづくり・市民協働,白河市歴史的風致維持向上計画(第二期)
<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/page/page0006322.html> (参照 2023-02-07)
- [8] 白河市歴史的風致維持向上計画(第二期),第3章 歴史的風致の維持及び向上に関する方針,歴史的風致の維持及び向上に関する課題 pp167-168
http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/data/doc/11614744252_doc_98_0.pdf (参照 2023-02-07)
- [9] 福島県観光復興推進委員会,令和3年度福島県観光地実態 web 調査,調査結果報告書,pp124-125
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/516476.pdf> (参照 2023-02-08)